

平成27年度 奈良県歯と口腔の健康づくり検討委員会 議事要旨

日 時:平成28年3月14日(月) 午後2時00分～午後4時00分

場 所:奈良商工会議所 4階 小ホール

出席者:(委員) 今田昭子、桐田忠昭、直野泰知、藤岡庄司、増田信一、和東栄美

概 要:

- 1 <議題1> なら歯と口腔の健康づくり計画の指標の最新値等について
- 2 <議題2> 歯科口腔保健に関する平成27年度の取り組み内容と平成28年度の実施計画について

一括して審議。以下、主な質問・意見。

- ・ 平成25年度に県歯科医師会が開始した、市町村を対象とした妊婦歯科検診の初年度補助について、28年度が最終になるので、県からも活用するようPRしてほしい。
 - ・ よく噛んで食べることは、健康寿命の点でも大事だが、実践率の現状値が下がっているので、今後注視していく必要がある。歯科医師会としても取り組んでいかなければならないと思っている。
 - ・ むし歯と歯肉炎にはそんなに相関関係があるのか。
→ どちらも磨き残しの歯垢(プラーク)が原因のため、罹患率には正の相関があるという仮説に基づいている。(事務局)
 - ・ 12歳児歯肉炎有所見率のばらつきが、ある程度許容範囲の中に収まるようにしていきたい。歯科医師会会員の指導を徹底していきたいと思う。
 - ・ 12歳児のむし歯罹患率、歯肉炎罹患率ともに高い市町村は課題があると思う。
 - ・ 12歳児のむし歯について、十津川村は未だ県内で一番多いが、1人平均本数は6年前から半分に減った。目標値には及ばないものの下がってきている。
 - ・ 御所市は5年ほど前から市内小学校をあげて、むし歯が減らない原因を調査を実施。子どもたちの面倒を見ている祖父母世代が多いことから、祖父母世代を対象とした歯科保健指導を保健センターに依頼。市で統一した子ども用の教育教材を作成したり、歯科衛生に対する意識が高くない家庭の児に対する積極的働きかけを実施。昨年度12歳児1人平均むし歯本数1.35本から今年度1.05本に減少した。市町村順位も上昇した。
 - ・ 妊婦歯科検診の受診率向上対策をさらに検討していく必要がある。
→ 実績から、個々の歯科医療機関で受診できる方式を選択した方が、高い受診率を期待できるのではないか。(事務局)
 - ・ 歯科検診の標準化について、歯・歯周病も大事だが、口腔粘膜、顎関節も項目に入れてやっていきたいと、県立医大口腔外科と県歯科医師会が話し合いを行っているところ。
- 3 <議題3> その他
- ・ 市町村歯科口腔保健条例の制定について、県歯科医師会から各市町村長に働きかけを行っているので、県からもお願いしたい。
 - ・ 歯と口腔の健康を維持向上させることは生活の質を高めるだけではなく、健康寿命の延伸につながるということを県民に発信していかなければならない。
 - ・ う蝕ハイリスク児歯科保健指導モデル事業について、今までの対象児は乳幼児期から小学生が圧倒的に多かったが、現在は幼少期と青年期の二分化が進んでいる。

以上